Press release

2019 年 1 月 7 日
PI 10832 RB Bö/BT

CES 2019：ボッシュ、IoT テクノロジーのリーディングカンパニーとしての地位を拡大

未来のモビリティとスマートホームのための IoT ソリューション

- IoT と AI：「人工知能なくして、IoT の可能性を完全に引き出すことはできません」
- モビリティの IoT：ボッシュ、未来のコネクテッドモビリティを提示
- 住まいの IoT：ネットワーク接続に対応した家電製品が生活を改善
- IoT #LikeABosch：ボッシュが IoT のイメージキャンペーンをグローバルで展開

米国ネバダ州ラスベガス – モノのインターネット化（IoT）により、私たちの生活はますます変化しています。ボッシュは、ラスベガスで開催される CES 2019 において、現在すでに実現可能な技術やソリューションを提示します。モビリティの新たな形を体験することができるコンセプト車両から、食品の保管についてアドバイスをするインターネット接続に対応した冷蔵庫や学習するスマートな芝刈り機まで、ボッシュは幅広いソリューションを世界最大の国際家電ショーで展示します。「ボッシュは、IoT がもたらす大きなチャンスを早い段階から認識していました。ボッシュは、これまで 10 年近くもの間、IoT を積極的に導入してきました。そして、ソフトウェアと IT の専門知識を着実に広げ、現在では IoT テクノロジーのリーディングカンパニーとなりました」とボッシュ取締役会メンバーのマルクス・ハインは述べました。ボッシュは、自社の IoT クラウドを用いて、モビリティ、スマートホーム、スマートシティやスマート農業などの分野で、すでに 270 件以上のプロジェクトを運用してきました。自社のミドルウェアである Bosch IoT Suite に接続されたセンサーとデバイスの数は、昨年から 40%近くも増加し、今では 850 万個に達しています。

IoT に関するさらなる成長と新しいビジネスチャンスの鍵を握るのが、人工知能（AI）です。ボッシュは、この分野でも開発をリードしています。「IoT と AI を統合し、両方の開発を同時に並行して進めることにより、IoT の可能性を最大限に引き出すことができます」とハインは語っています。ハインの考えでは、これら 2 つの分野は補完的な関係にあります。これについてはハインは、「IoT は知能を必要とします。データを収集するためにネットワーク化されたモノを利用することは、AI の開発にとって決定的な推進力になります。AI によってのみ、ネットワーク化されたモノが賢くなり、学習し、自ら判断でき

Robert Bosch GmbH
Postfach 10 60 50
70049 Stuttgart Germany

E-mail Trix.Boehne@de.bosch.com
Phone +49 30 32788- 561
Twitter @TrixBoehne

Corporate Department
Communications and Governmental Affairs
Senior Vice President: Prof. Christof Ehrhart
www.bosch-press.com

るようになります。とりわけボッシュが目指すのは、AI、IoT を人々の生活の具体的な改善につなげることです。たとえば、より多くの時間、より高い安全性、より高い効率性、より高い利便性を提供することです」と述べています。具体的な例として、カメラをベースにした火災検知があります。セキュリティカメラの画像解析を用いることで、システムのセンサーが熱と煙を検知するよりも前に、火元の発生から数秒以内に火災を認識することができます。このようにして、従来の火災／煙警報システムよりも大幅に早く火災を検知することができます。これにより、命を救うための貴重な数分間を稼ぐことができます。

IoT 時代への道のりにおいて成功するための 2 つ目の鍵は、パートナーシップです。ここでボッシュは、伝統的なプレイヤーと新しいプレイヤーの両方とパートナーシップを組んでいます。カナダのプラットフォームプロバイダーである Mojio 社と先日合意した提携では、最初のコネクテッドカー向け統合 IoT プラットフォームが開発されました。事故の際には、ボッシュのアルゴリズムが、事故が発生した場所と日時、被害の程度を識別し、そのデータが Mojio 社のクラウドを経由して遅延なくボッシュの緊急サービスセンターに転送されます。さらに、そこから自動の緊急通報が最寄りの救急サービスへ送信されます。同時に、ユーザーがあらかじめ設定した連絡先リストへ、ショートメッセージまたは Mojio アプリを介してメッセージが送信されます。「ボッシュは、Mojio と協力して車両を直接クラウドに接続させました。これにより救急サービスは、以前よりも早く事故現場に到着できます」とボッシュ北米法人の社長マイク・マンスエッティは CES でのスピーチにおいて述べています。来年の中ごろから、北米と欧州の 100 万人近いドライバーが、この緊急サービスを利用できるようになります。

路上での IoT：ボッシュは未来のコネクテッドモビリティを示す

ボッシュは、社内で開発したシャトルのコンセプト車両を CES において世界で初めて公開しています。この車両には自動化、ネットワーク化、電動化のためのソリューションが搭載されており、来場者はモビリティの新たな形を体験することができます。このドライバーレスシャトルは、間もなく世界の様々な都市の路上で目にすることになるでしょう。「これは、できる限り Emission-free（排出ガスのない）、Accident-free（交通事故のない）、Stress-free（ストレスのない）モビリティというボッシュのビジョンに貢献するものです」とハインは語っています。このようなシャトルベースのモビリティのために、ボッシュはコンポーネントとシステムだけではなく、予約、シェアリング、ネットワーク化プラットフォーム、駐車および充電サービスといったあらゆる種類のモビリティサービスも提供する予定です。ボッシュは、こうしたネットワーク化サービスが、将来実現するであろうシャトルベースのモビリティに不可欠だと考えます。これらのサービスは、予測される市場規模も非常に大きく、2017 年は 470 億ユーロでしたが、2022 年には 1,400 億ユーロ程度になると推定されています（出典：PwC）。ボッシュは、その中でシェアを確保したいと考え、ソリューションを提供することで事業の 2 桁成長を目指しています。「将来、すべての車両がボッシュのデジタルサービスを利用するようになるでしょう。ボッシュは、それらのサービスをシームレスにネットワーク化されたエコシステムに統合します」とハインはモビリティサービスの可能性を確信しています。

シャトルベースのモビリティを実現するための最後のチャレンジは、複雑な都市環境で車両を自動化することです。ここでもボッシュは、パートナーシップがその答えであると考えています。今年の下半期、ボッシュとダイムラーはカリフォルニア州シリコンバレーのサンノゼで完全自動運転のドライバーレスライドシェアリングサービスを試験的に提供する予定です。これについて、ボッシュ、ダイムラー、サンノゼ市の三者はすでに合意書にサインをしました。ボッシュとダイムラーは、開発提携を結ぶことで、都市の交通の流れを改善し、交通安全を強化し、未来の交通にとって重要な基盤を提供したいと考えています。両社の目的は、完全自動のドライバーレス走行（SAE レベル 4/5）が可能な走行システムを開発することです。これは、2020 年代初めの量産化に向けて準備が進められています。

家庭での IoT：ネットワーク化された家電製品がユーザーの生活を圧倒的に便利に

ユーザーの生活をもっと楽にするネットワーク化された製品とサービスが求められているのは、モビリティの分野だけではありません。「ボッシュは、コネクテッドホームのアイデアと、自ら考えてユーザーが望むことを理解する家電製品の開発に取り組んでいます」とハインは述べています。たとえば CES では、食品の種類を認識し、保管についてアドバイスするインターネット接続に対応した冷蔵庫の新機能を展示しています。内部カメラが約 60 種類の果物と野菜を自動で認識し、アプリを用いてそれらの理想的な保管場所を提案します。その結果、食品が最適な方法で保管され、鮮度がより長く保たれ、食品廃棄の削減に貢献します。

もうひとつの新しい技術は、キッチンカウンターのワークトップに仮想ユーザーインターフェースを投影することができる PAI プロジェクターです。プロジェクターに内蔵された 3D センサーが、インターフェース上の手の動きを認識し、インターフェースのタッチスクリーン操作を可能にします。こうして、ユーザーはインターネット上のレシピを検索したり、料理中やオーブンの使用中にインターネット電話をかけることもできます。キッチンで使用するために設計された PAI は、スマートフォンやタブレットのように水や汚れを気にして使用する必要はありません。指がベタベタしていても、ワークトップ上のタッチスクリーンを完璧に操作することができます。PAI は、2019 年 2 月に中国で最初に販売され、続いて米国で販売されることが決まっています。

さらにボッシュは、インターネット接続に対応した新たなロボット芝刈り機「Indego S+」を CES において展示しています。これは、Amazon Alexa で音声操作できる初めてのロボット芝刈り機のひとつです。また、ウェブ上の天気予報を利用して次の芝刈りの最適な時期を自動的に判定できる機能を世界で初めて搭載しました。このロボット芝刈り機は、モーターの動き、加速、モーター回転数、方向などのデータを評価することで、芝生上の障害物を認識することもできます。その認識方法を向上させるために、ボッシュは AI を使用しています。「ボッシュは、芝生の手入れがさらに楽で便利になるように AI を使用しています。ボッシュのビジョンは、Indego が各ユーザーの庭に適応して毎回完璧に芝を刈るようにさせることです」とハインは述べます。

IoT #LikeABosch：ボッシュが IoT のオンラインキャンペーンを開始

ボッシュは、CES 2019 を利用して、新しい IoT イメージキャンペーンを初めて公開しています。キャンペーンの中心的な要素は、最先端を行く IoT ユーザーが主人公を務めるヒップホップ調の動画です。ボッシュは、「Like a Bosch」キャンペーンで新たな試みに挑戦します。これまでとは異なるアプローチと雰囲気は、1886 年に創設された伝統的な企業の新たな出発を表しています。この PR 活動は、昨今インターネット上で急速に広まり、何千万ものアクセスを集めた「like a boss」の動画とミーム（meme：インターネット上で広がるムーブメント）をコンセプトにしたものです。「like a boss」のミームは、一般の人々が「プロ（boss）のように」様々なスタントを演じたり、巧みに窮地から脱出したりする様子を動画で撮影し、ソーシャルメディアに投稿するものです。IoT イメージキャンペーンは、このインターネット上の現象に新しい解釈を加えました。ボッシュの動画の主人公は、ボッシュのネットワーク化ソリューションのおかげで常に最先端を行く若い男性です。彼は、手にしたスマートフォンで車や芝刈り機、コーヒー メーカーなどをクールでスマートに自信を持って操作します。「ボッシュのように（like a Bosch）」何でも思い通りです。

CES 2019 におけるボッシュのイベント：

- **ボッシュ役員の記者会見**：Ballrooms B、C＆D、Mandalay Bay Hotel、Las Vegas **South Convention Center、Level 2、2019 年 1 月 7 日（月）9:00～9:45（現地時間）**
- **ブース**：**2019 年 1 月 8 日（火）～11 日（金）**、Central Hall、ブース #14020
- CES 2019 におけるボッシュのハイライトをツイッターで紹介：**#BoschCES**

- **ボッシュのエキスパートによる講演会**：
  - **2019 年 1 月 9 日（水）9:00～10:00**（現地時間）
    「コネクテッドホームの技術革新」、Anne Rucker（デジタル戦略グローバルヘッド）、Venetian、Level 4 Marcello 4405
  - **2019 年 1 月 9 日（水）9:00～10:00**（現地時間）
    「テクノロジー、職、仕事の未来」、Charlie Ackerman（北米人事担当シニアバイスプレジデント）、ラスベガス Convention Center、North Hall N258
  - **2019 年 1 月 9 日（水）14:15～15:15**（現地時間）
    「5G による最大限の IoT」、Davie Sweis（北米ボッシュのグローバルデジタルビジネス担当バイスプレジデント）、Las Vegas Convention Center、North Hall N256

報道関係対応窓口：

Melita Delic, +49 711 811-48617, +49 160 7020086,
Trix Böhne, +49 30 32788-561, +49 173 5239774,
Irina Ananyeva, +49 711 811-47990, +49 152 59753284,
Jörn Ebberg, +49 711 811-26223, +49 172 5731347,
Annett Fischer, +49 711 811-6286, +49 152 08651292,
Briela Jahn, +49 711 811-6285, +49 172 7098624

世界のボッシュ・グループ概要

ボッシュ・グループは、グローバル規模で革新のテクノロジーとサービスを提供するリーディングカンパニーです。2017 年の従業員数は約 40 万 500 人（2017 年 12 月 31 日現在）、決算報告での売上高は 781 億ユーロ（約 9.9 兆円）を計上しています。現在、事業はモビリティ ソリューションズ、産業機器テクノロジー、消費財、エネルギー・ビルディングテクノロジーの 4 事業セクター体制で運営しています。ボッシュは IoT テクノロジーのリーディングカンパニーとして、スマートホーム、スマートシティ、コネクテッドモビリティ、さらにコネクテッドインダストリーに関する革新的なソリューションを提供しています。ボッシュはセンサー技術、ソフトウェア、サービスに関する豊富な専門知識と「Bosch IoT cloud」を活かし、さまざまな分野にまたがるネットワークソリューションをワンストップでお客様に提供することができます。ボッシュ・グループはコネクテッドライフに向けたイノベーションの提供を戦略的な目標に定め、革新的で人々を魅了する全製品とサービスを通じて生活の質の向上に貢献します。つまり、ボッシュはコーポレートスローガンである「Invented for life」-人と社会に役立つ革新のテクノロジーを生み出していきます。ボッシュ・グループは、ロバート・ボッシュ GmbH とその子会社 440 社、世界約 60 カ国にあるドイツ国外の現地法人で構成されており、販売／サービスパートナーを含むグローバルな製造・エンジニアリング・販売ネットワークは世界中のほぼすべての国々を網羅しています。ボッシュの未来の成長のための基盤は技術革新力であり、世界 125 の拠点で約 6 万 4,500 人の従業員が研究開発に携わっています。*

ボッシュの起源は、1886 年にロバート・ボッシュ（1861 ～1942 年）がシュトゥットガルトに設立した「精密機械と電気技術作業場」に遡ります。ロバート・ボッシュ GmbH の独自の株主構造は、ボッシュ・グループの企業としての自立性を保証するものであり、ボッシュは長期的な視野に立った経営を行い、将来の成長を確保する重要な先行投資を積極的に行うことができます。ロバート・ボッシュ GmbH の株式資本の 92 %は慈善団体であるロバート・ボッシュ財団が保有しています。議決権の大半はロバート・ボッシュ工業信託合資会社が保有し、株主の事業機能を担っており、残りの株式は創業家であるボッシュ家とロバート・ボッシュ GmbH が保有しています。

**2017 年の平均為替レート:1 ユーロ＝126.71118 円*

さらに詳しい情報は 以下を参照してください。

www.bosch.com ボッシュ・グローバル・ウェブサイト（英語）
www.bosch-press.com ボッシュ・メディア・サービス（英語）
https://twitter.com/BoschPresse ボッシュ・メディア 公式ツイッター（ドイツ語）
www.bosch.co.jp/ ボッシュ・ジャパン 公式ウェブサイト（日本語）
https://twitter.com/Boschjapan ボッシュ・ジャパン 公式ツイッター（日本語）
https://www.facebook.com/bosch.co.jp ボッシュ・ジャパン 公式フェイスブック（日本語）
https://www.youtube.com/boschjp ボッシュ・ジャパン 公式 YouTube（日本語）